

編集復刻版

ただし  
**根岸 侖 著作集 第3巻**

編・解説 三好 章 (愛知大学教授)

中国研究者、根岸侖(1874年～1971年)は1901(明治34)年に上海に渡り、東亜同文書院創立期の若き教授として活躍した。東亜同文書院時代には、その研究教育の代名詞ともいべき学生たちの「卒業大旅行」を企画・指導し、退職後にも関わりを持ち続けて編集、集大成した『支那経済全書』及び『支那省別全誌』を刊行した。1917(大正6)年には東京高等商業学校(現一橋大学)教授となって後進の指導育成にあたり、同時に『支那ギルドの研究』『中国のギルド』をはじめ多くの研究書を残した。

根岸侖の中国研究は、自らの足と目で中国を確かめ、それを豊かな古典的教養によって整理し、中国社会とそれを形づくっている中国の人々を理解しようとするものであった。例えば中国のギルドについて、それを単なる商業組織として見るだけでなく、中国の社会組織全体に通ずる中国固有の社会結合と社会秩序の核心が潜んでいることを見抜いていた。

現在の中国を研究、理解するためにも大きな示唆を与えることを確信し、本著作集を刊行する次第である。

**根岸侖著作集 全5巻  
収録内容**

- **第1巻** (2015年8月刊行)  
本体 22,000円+税  
ISBN978-4-8350-7799-4  
『支那ギルドの研究』(1932年)  
『中国のギルド』(1953年)
- **第2巻** (2016年3月刊行)  
本体 22,000円+税  
ISBN978-4-8350-7800-7  
『上海のギルド』(1951年)  
『支那買辦制度』(1919年)  
『買辦制度の研究』(1948年)  
『華僑襟記』(1942年)
- **第3巻** (2016年8月刊行)  
本体 22,000円+税  
ISBN978-4-8350-7801-4  
『中国社会に於ける指導層  
—中国耆老紳士の研究—』(1947年)  
『商事に関する慣行調査報告書  
—合股の研究—』(1943年)
- **第4巻** (2017年3月刊行予定)  
『支那経済論』(1940年)  
『東洋経済事情』(1934年)  
『支那特別関税会議の研究』(1926年)
- **第5巻** (2017年8月刊行予定)  
『支那及満洲の通貨と幣制改革』(1937年)ほか  
※本著作集は当初全3巻の予定でしたが、  
全5巻に変更させていただきます。

**「根岸侖著作集」第3巻**  
(三好 章 編・解説)  
2016年8月刊行  
B5判・二面付方式・上製・520頁  
定価 本体22,000円+税  
ISBN978-4-8350-7801-4

**不二出版**

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12 Tel 03-3812-4433 Fax 03-3812-4464  
<http://www.fujishuppan.co.jp> [administrator@fujishuppan.co.jp](mailto:administrator@fujishuppan.co.jp)

# 内容見本

## 中國社會に於ける指導層 (目次)

序文……………山田久就

### 總 序

第一 耆紳研究の理由……………

第二 中國社會の特殊性と耆紳の發生……………

第三 中國社會の耆紳尊重……………

第四 耆紳と傳統……………

第五 耆紳の職分……………

第六 中外の耆紳收攬……………

第七 耆紳の弊害と其匡濟……………

第八 耆紳の變遷と其將來……………

一、利益社會的都市的生活と耆紳……………

二、國民革命と耆紳……………

三、法治國家建設と耆紳……………

四、古今時勢の推移と耆紳の變化……………

五、將來の指導統率層と商階級……………

六、中國は急變せず……………

### 總 說

支那の合股は日本民法の所謂組合の義に當るものであつて、經營經濟學上の小數集團企業形態に屬すべきものだ。これは支那特殊の事情から發生した支那固有の企業形態であつて、久しく支那經濟界に流行した。最近歐米資本主義國家が支那を侵略するに及び、支那は之を防護する手段として自ら資本主義化するに及び、株式會社を輸入することゝなつた。之がため合股は少なからぬ打撃を受けたけれども、外來の株式會社と異り、支那の國情に副ふべきものあるのみならず、資本主義經營の長所を利用し、聯號と名づくるコンツェルンを組織するなど、大勢に順應して發展を遂げ、今尙ほ支那に於ける重要な企業組織たるを失はない。

合股は企業上支那に於て重要な地位を占むるものであるから、これまで内外人の之を研究するものが多く、立派な研究報告の公にせられたのは決して少くない。臺灣私法や、テリー氏は、最も精緻に合股を研究したものと云ふべきであるが、大體法律方面よりの觀察に過ぎない。南滿洲鐵道會社調査室は種々合股に關する有益なる研究を發表して居るが、其内に經濟方面から觀察せられたる著書もある。しかし法律や、經濟以外の立場から詳密に合股を研究したものがあまり多くない。合股は大體營利を目的とする組合であるから、法律家や經濟學者が、各々専門的方面から研究すること當然である。されど合股の淵源は家族制度に存するものであつて、合股業務担当者

英 一  
六二

## 中國社會に於ける指導層

### 中國耆老紳士の研究

#### 總 說

##### 第一 耆紳研究の理由

我邦の中國と相距る一衣帶水に過ぎない。其正式に國交を遂じてから既に一千三百餘年を経た。一時我邦で學術と言へば中國學術を指した程である。明治以降彼我の關係俄かに緊密となり、日本の外交は殆んど中國に集中すと言ふも大過なきに至つた。従つて我邦朝野の中國研究旺盛であつて、大小の中國通雲の如くに出で、中國を知り盡して餘蘊なきやうになつた筈である。然るに中日間に事件發生した場合、日本人の觀測が正鵠を失し、機宜の處置を誤つたこと枚擧するに遑がない。我邦未曾有の危機と稱せられた「中國事變」の發生したとき、總理大臣を始め朝野中國通の之に對する意見なる

『商事に関する慣行調査報告書』より

# 不二出版

〒113-0023  
東京都文京区向丘1-2-12  
Tel 03-3812-4433  
Fax 03-3812-4464  
振替 00160・2・94084